

[花き部門]

4. ブルーレースフラワーの雄ずいの落下軽減法

[要約]

ブルーレースフラワーの雄ずいの落下は、市販の整髪スプレー散布により軽減できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

ブルーレースフラワーは、観賞時に雄ずいが落下し問題となっている。そこで、物理的に雄ずいを固めて落下を軽減する方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 市販の整髪スプレーA剤を出荷適期（小花4割開花）の集合花に1～2秒散布することで、処理7日後の離脱雄ずい数が無処理に比べ減少した（表1）。
2. 市販の整髪スプレーA剤を茎、葉に散布したところ薬害は認められなかった（データ省略）。

以上の結果から、整髪スプレーA剤を1～2秒/花散布することで、落下する雄ずい数を軽減できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 整髪スプレーA剤は、花王社製ヘアスプレーケーブ（ソフト）D。
2. 散布は、花から15～20cmの距離で行う。
3. 2秒より長く散布すると、未開花小花が増加する可能性がある。

[具体的データ]

表1 落下軽減処理における散布時間が雄ずいの落下に及ぼす影響

スプレー	散布時間 (秒/花)	離脱雄ずい ^z (本/花)	未開花小花 (個/花)
A剤	0.5	132.5 ab ^y	0.2 (0.2) ^x a
	1	104.3 a	2.7 (2.4) a
	2	89.8 a	2.2 (2.0) a
B剤	0.5	78.2 a	7.5 (6.9) a
	1	92.2 a	8.3 (7.7) a
	2	65.7 a	25.7 (23.6) b
無処理	-	196.5 b	0.0 (0.0) a

^z処理7日後に自然落下した雄ずいと花柄を軽くたたき落下した雄ずいの合計

^y異なるアルファベット間には5%水準で有意差あり (Tukeyの多重検定)

^x()内の値は、全小花数に対する割合

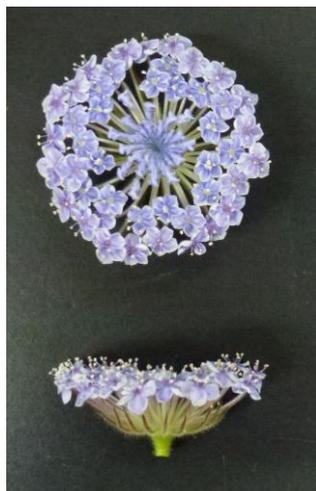


図1 小花4割開花時の集合花

[その他]

研究課題名：ブランド化を目指した特産花きの品種選抜と栽培法の改善

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：藤本拓郎、森義雄

関連情報等：藤本拓郎、森義雄(2013)、園学研12(別1):170